平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果　（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3071201325		
法人名	株式会社メディカル・ギア・エクウィプメント		
事業所名	グループホーム自然の郷　【ユニット名：海　】		
所在地	和歌山県紀の川市桃山町最上1206－7		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201325&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52　ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

暮らし慣れた家庭生活をそのままに、家事や趣味などを楽しみ仲間と一緒に生活しながら「人間」としての尊厳を大切にし、ゆったりとした環境の中で生活していただくアットホームな施設です。認知症の方が安心して生活していただけるような寄り添うケア・サービスを実施し、地域とともに高齢者社会をより快適にサポートいたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

紀の川の南側に位置する山の中腹に建ち、自然豊かな季節感を感じられる環境である。自然素材を多く使った事業所内部は高齢者にとって家庭的な過ごしやすい居住空間になっている。近隣の入居者が多く、暮らし慣れた地域で顔見知りの人とともに家庭的な生活を送ることができるよう支援している。広い敷地内では菜園作りを通して張り合いや楽しみのある日々を過ごせるよう取り組まれている。職員は、入居者は家族であるという気持ちや年長者に対する尊敬の念を持ち、訪問した家族が安心して帰宅できるよう心がけている。職員間のチームワークもよくとれており、和気あいあいとした雰囲気の中でケアが実践されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然に恵まれた、すばらしい環境で馴染みの方と不安なく、毎日を笑顔で過ごして頂ける理念を作り実施しています。	恵まれた自然の中、地域で暮らし続けるという理念を皆で考え、事務所・ユニットに掲げて職員の意識の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時の交流や催し物には積極的に参加しています。	地区の交流センターや介護施設の催しに参加し、昔なじみの人にも会える機会となっている。隣接の高齢者住宅の住民とは、朝の体操やお茶に誘ったり花を届けてもらったりという交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の区長さんへの催し物の参加等や、ホームの見学を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催する事により、相談や意見を交わす機会が増え、外部より新しい情報と問題等を受け入れる姿勢が向上している。	紀の川市高齢介護課の職員・家族代表・地区代表の出席で2カ月に1回開かれている。内容は各ユニットの入居者の状況報告や行事予定の案内が大半を占めている。	入居者も交えて本人の思いを話して貰ったり、事業所の課題を投げかけたり、外部からの意見が活発に出るような会議の進め方の工夫が求められる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密に連絡を取り、協力関係を築いている。	市の職員が運営推進会議に出席しており、事業所の状況をよく知ってもらうことに繋がっており、気軽に相談できる関係が築かれてきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成や研修等を行い、職員のレベルアップを図っているが、玄関の施錠は開錠していない為、今後の課題となっている。	身体拘束に関する研修を実施している。玄関には鍵がかけられているが、入居者の外に出たいという様子を察知した時には職員が必ず付き添い、心理的圧迫感の回避に努めている。開錠に向けて外の門扉を設置する案の実現に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアル作成や外部研修、職員研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアル作成、職員研修を行う事により学び理解し、日常活用への支援をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明や質問に出来るかぎり時間を取るようにしています。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等を話し合う機会をもうけ、検討している。	家族の意見は来訪時に聞いており、クリスマス会の際に年1回意見を聞く機会を設けている。入居者には聞き取りアンケートを実施しているが、家族に対するアンケートは行っていない。	家族会の設置なども検討し、直接意見や要望を言いにくい家族でも話しやすい機会を設けることが望まれる。小さな声も受け取り、サービスの質の向上に繋げることを期待する。
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を行ない、話し合う機会を、もうけている。	ユニット合同の職員会議やユニットごとの会議で意見を聞いている。それに加えて、親睦を深めて何でも話せるように茶話会を開いており、介護や運営に関する職員の意見や提案を聞く機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員との会話の時間を、もうけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や職員研修を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	リーダー研修への参加や他施設、管理者間の相互訪問も行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけ、会話する事により顔を覚えて頂き、孤独にならないように、常に声をかけ見守っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何でも聞いて頂けるような、雰囲気作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のサマリーやフェイスシート、本人、家族との要望を取り入れた支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	戦争当時の話や、生き様を教えて頂いたり、作法についてなど日常会話を楽しんで頂き、その方の立場に立った支援を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院等の援助や、常に連絡を密に取り合っている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は自由に来て頂き、食事等も時には居室で一緒に食べて頂いている。地域での催しは、知人との出会う機会が多い為、積極的にすすめている。	場合によっては、入居者が携帯電話を所持、使用することもでき、それまでの人との付き合いの継続に配慮している。馴染みの人との交流ができるよう地区の催しへの参加を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの生活を楽しくする為にも、交流する機会を多く作っている。カラオケやトランプ等レクリエーションを支援するとともに、リビングや居室での会話を見守っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてから、近所の方の相談や紹介の件数あり、運営推進会議での地域代表になって頂いた事もある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の今までの生活暦を把握した上で、会話や行動により、その人にとって希望や必要性を見出し、それにそうように努めている。	本人の希望に沿ったケアを提供できるように、日々の生活の中でも本人の思いや意向の把握に努め、アセスメントにはセンター方式を使用している。入居者へのアンケートも実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用したり、聞き取りにより把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録や生活記録シートバイタルサインチェック等により、見守り援助を行なっている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望、モニタリングや職員との話し合いを参考に作成する。	入所時・更新時のアセスメントや訪問時の家族の要望、日頃のかかわりやアンケートからそれぞれの希望を計画に反映させている。介護計画作成、モニタリングは年1回程度である。	新たな要望や状態の変化がない場合でも、できるだけ年に2回以上、個別記録を基にしたきめ細かい計画の見直しを実施することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日二回の申し送りや、その都度の話し合いを参考に作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科、内科との連携体制を取っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれた静かな環境の中での散歩や買い物に出かける。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携により、日常的な連絡を密に取っている。時には、紹介状を書いて頂き、公立病院を受診している。	かかりつけ医は家族や本人の希望で決めている。今までのかかりつけ医を継続する場合もあり、夜間や緊急時に対応できる事業所の協力医を希望し、変更する入居者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に、看護師が常勤しておらず、訪問看護も使っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとは連絡を取り合い、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、説明を行ない会社の方針や家族様の意見を傾聴した上で、共有して頂き署名、捺印を頂いている。	入所時、医療行為を伴う看取りはしないという説明をし、本人・家族と話し合い「重度化した場合の指針」と「看取りに関する同意書」を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、それに基づき研修等で対応訓練を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、職員研修によりレジメ参照し、勉強会を行なう。消防署との連携により、防火訓練(年２回)災害時訓練を行なう。	年2回消防署の協力を得て、入居者と共に昼夜を想定した避難訓練を行っている。近くにある同系列の介護施設には夜間の警備員も居り、緊急時の協力が得られる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、誇りを傷付けないよう、言動に注意している。又、記録等の個人情報の取扱いは収納庫に管理している。	援助が必要な入居者でも、さりげない声かけをしたり、人目のない場所や居室に戻って対応するなど、本人の誇りを損ねない介護を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、本人が決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせた生活をして頂ける様に支援し、その日の体調や希望で食事時間が異なる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	１日のメリハリをつける為にも、着替えや外出時には、いつもよりオシャレをするなどの気分転換をするように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自然に囲まれている為、山菜取りやホーム内での畑作りを行い、食材に活用し、楽しく食事が出来るように心掛けている。又、食事作りや、準備、食器洗い等、出来る方には一緒に行なっている。	個々の力を活かすために、メニューは入居者と一緒に考え、買い物から調理や配膳・片付けもできるだけ一緒に行なっている。同じテーブルで共に食事しているのは検食の職員１名のみである。	職員が一緒に食事を取ることで会話が弾み、コミュニケーションも深まることが期待できる。共に食事を楽しめるよう前向きな検討が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	センター方式を活用しシートにより、把握し常に良好な体調を保つように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、自立されている方、声掛けにて口腔ケアを行い、介助のいる方は職員が介助している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センター方式の書式を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自然な排泄の習慣になる様、自立に向けた支援を行なっている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを捉え、羞恥心に配慮した細やかな支援を行い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、バナナやヨーグルト、水分補給を促し自然排便に努めているが、それでも排便がない方へは、主治医と相談し、服薬にて排便の調整をする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックによる体調の変化に注意し、希望やタイミングを図りながら入浴を促している。又、入浴を拒否する方へは、その方に合った声掛け、誘導を行い入浴を促している。	時間帯は昼から夕方にかけて、希望があれば毎日でも入浴できる支援をしている、入浴を拒む場合は、日にちをあけたり、入居者に合わせた声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度変化に注意し、ゆっくりと安眠できる支援を心掛けている。又、ソファや畳の部屋等の自室以外でも、ゆっくりと休める場を設け、休息して頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師から処方して頂く薬を、薬局から薬のはたらきと飲み方を明記した書類を閲覧しやすく整理する事で、体調や症状の変化の確認に、すぐに対応できる様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションの中で、今まで行なってこられた得意な事を活かして、他者との係わりを多く持つ事で楽しみが増え、喜びが持てる日常生活を送る事ができる支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。大衆演劇等や外食は、利用者の希望により出かけている。	希望にそって事業所の周辺に散歩に出たり、スーパー・日用雑貨の買い物に出かけている。観劇や外食・遠足は年2回ずつ予定し、楽しみを持てるよう積極的に外出の支援をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各入居者の方により、買物先で、お金の出入りをしてもらっているが、職員が管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携態電話を所持している方やホームの電話を使用される方など様々です。手紙は、ケアワーカーがポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が山や木に囲まれており、大きな道路に面していない為、利用者にとって不快な音はなく静かな所で、一歩外へ出ると季節感を感じる事ができる。又、建物内は木造による南側に面した居室配置になっている為、太陽光を十分に取り入れる事ができ	山並が見渡せる明るい居間と、オープンキッチンの食堂は生活感や季節感が感じられる。同じフロアーにソファーと段差のない和室があり、くつろげるように工夫している。昼間、ユニットの間仕切りはなく、開放的すぎて一息つける場所が見当たらない。	入居者のプライバシー確保にも配慮して、他の人の目を遮り一息つけるような共用空間のスペースづくりが望まれる。玄関のユニット間の間仕切りにも工夫がほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と、共用空間が近い為、独りになる事も、気の合った利用者とすぐに顔を合わす事もでき、思い思いの居場所作りが可能となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室南向きの為に居心地良く、本人や家族と相談し、以前から使っておられたタンスやテレビ等を使って頂き、レクリエーションによる手芸品等を飾り楽しみ、安心できる住まいとなるよう工夫している。	各部屋の縁側から庭に出られ、花を植えて楽しむなど、解放感のある居室となっている。ベッド・洗面台は備えつけであるが、写真や使い慣れた物・好きな植物を持ちこみ、居心地よく過ごせるよう支援している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーと手すりにより、安全な環境づくりに取りくみ、一人ひとりが目的地までの移動が分かりやすく出来る事を活かし、自立支援に努めている。		